

学校名	只見町立朝日小学校
授業者	木戸 裕治

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

只見の自然博士になろう② ～只見の自然について知ろう～

1-2. 学年

第3学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

第3学年の総合的な学習の時間のテーマは「只見の自然博士になろう」。このテーマは、子ども達の身近にある自然環境に目を向けることから始まる。多くの子が生まれながらに住んでいる只見町。子ども達にとって身の回りの自然は当たり前前の環境であり、なんとなく知っている存在である。

そこで、なんとなく知っている自然に対して、子ども達が自ら足を踏み入れ、どのような自然環境になっているのかを知り、地域の自然環境について理解を深めていくことをねらいとした。そのため、以下のような流れを単元の柱として構成した。

- ① 実際に只見町内の森の探検を行い、それを通して自然環境について問いをもつ。
- ② 子どもがもった問いについて、地域のブナセンター（施設）やその学芸員（人）そして、本や資料（もの）に関わり活用して解決を図る。
- ③ 調べたことをまとめる。

尚、総合的な学習の時間の学びが始まった段階であることを考慮し、子ども達の問いに寄り添いそれを解決していくことに十分に配慮して学習活動を展開していくこととした。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

単元のねらい

自分たちが生活する只見の自然や暮らしについて自らの問いをもとに調べる活動を通して、地域の特徴について整理・分析してまとめる力を育成する。

単元設定の理由

（1）児童の実態

今年度から総合的な学習の時間の学びがはじまり、1学期から「只見の自然博士になろう」のテーマのもと学習に取り組みはじめた。子どもたちは幼い時から今まで、ずっと只見で生活してきている。そういった中において、前単元の導入場面において男児Tから「只見にすることが当たり前で、自分の身の回りのことをよく見ていなかった。当たり前だからわからない。」といった言葉が発せられた。つまり、只見の自然環境は子どもたちにとって当たり前前の世界であり、その環境について改めて自覚したことがなかった。子どもたちは「地域のことを知っている」のだが「分からない」無知の状況にあることを表していた。この様子は他の子どもたちにとっても同様であった。そのため、総合的な学習の時間を通して、子どもたちの只見の自然について無知である状況から、「地域のことを知っている」を「知っている」といった既知に変えていくことが求められた。そこで下福井観察の森の探検やブナセンター見学、ブナセンター学芸員の

方へのインタビューなどの活動を積極的に行い、子どもたちが体験を通して地域のことを知る活動を行ってきた。それらの活動によって少しずつ子どもたちは自分の身の回りにある地域の自然環境について「知っている」情報量を増やしつつある。

(2) 単元観

本単元は前単元から引き続き、子どもたちが生活する只見の豊かな自然や暮らしについて探求することで、自らの生活や身の回りの環境の素晴らしさ、その多様性についてさらに理解を深める単元である。

前単元において男児Tがつぶやいた「只見にすることが当たり前で、自分の身の回りのことをよく見ていなかった。当たり前だからわからない。」この言葉が「只見の自然博士になろう」を貫く子どもたちの問いと考える。本単元においても、この無知を既知に変えることができるように、自分たちの身の回りに存在する只見の豊かな自然について直接体験や、間接体験に重点を置き取り組んでいくことが大切である。表面的に知ったように思っていた事柄についても、直接体験や間接体験を繰り返し学んでいくことで、知識が分類整理され、それらの比較によって更なる驚きや発見が生まれると考える。繰り返し学びの場を設けることで「なぜ?」「どうして?」といった問いや、もっと只見の自然について探究したいという思いや願いが表出されると考える。それらに寄り添って授業を展開することで、本単元においても子どもたちが主体的に課題解決に取り組み学びに向かい続ける展開が構成できると考えられる。

また、子どもたちは今年度から総合的な学習の時間の学びに取り組み始めた段階である。そのため新指導要領の目標に示されている、「実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする」が達成できるように、本単元を通しその学び方についても試行錯誤しながら学びを深めていかなければならない。そのようにすることで、E S Dの目的でもある、持続可能な社会の担い手として必要とされる資質・能力を育むことにつながると考える。

(3) 指導観



子どもたちは1学期に直接体験として下福井観察の森探検を行っている。また、間接体験としてブナセンター見学や学芸員による地域の自然環境に関する講義、そして自らの問いを解決するためにインタビューなどを行ってきた。それらの活動を通して、少しずつ只見の自然環境について知識を得ている状況にある。子どもたちが只見の自然環境について興味をもち、その概要について知識を得て知ったつもりになった状況だからこそ、本単元においては只見の新たな自然環境に出会う場を設けていきたいと考えた。新たな体験を積み知識が増えることで、これまでの学びと比較検討する視点が養われ、より一層只見の自然環境について理解を深めることができるのではないかと考えたためである。

本時では、新たな只見の自然環境として恵みの森を探検し、発見したこと学んだことを黒板に掲示させることから始める。そのようにすることで、子どもたちは「動物」「昆虫」「樹木」などに分類整理しながら只見の自然環境について再確認していくであろう。その上で只見の自然環境における特徴について2つの森を中心に比較し考えさせていく。すると子どもたちは2つの森に共通することや異なる点について気づいていくであろう。そこで「共通していることは只見の自然の特徴としてよいか?」「共通していないことは只見の自然の特徴とは言えないのではないか?」といった視点を与え考えさせていく。すると、子どもたちは共通するものについては特徴として認められると判断していくであろう。その一方で、共通していないものについてはどうなのだろうといった思いをもつのではないかと考える。そのような状況において、只見の自然博士になるためには曖昧な状況があってよいのかと投げかけていきたい。これまでに「ひと・もの・こと」に対して直接体験、間接体験を重ねてきた子どもたちだからこそ、「どのような動物がいるのかをセンサーカメラで確かめたい。」「学校の周りにも2つの森にあった樹木があるのか見てみたい。」「只見の自然の特徴ってブナだけなのか?それ以外に特徴はないのかな?」といった具体的な問いを表出させていくのではないかと考える。そして、それらの問いを付箋に記入させ可視化させることで、問いの共有を図れるようにしていく。最後にどのような方法であれば解決を図っていくことができるのだろうかと考えられる場を設け、次時における解決方法の検討について見通しをもたせることができるようにしていきたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

<p>批判的に考える力 ア 地域の自然環境に関する情報を比較して、環境の特徴をとらえることができる。</p> <p>未来像を予測して計画を立てる力 イ 只見の自然に関心をもち、自らの問いをもつことができる。 ウ 事実や本物に近い情報を生かして、自らの問いを解決できるように学習計画を立てることができる。</p> <p>多面的・総合的に考える力 エ 学んだ知識を分類整理する活動を通して、問いをもち解決の方法を考えることができる。 オ 只見の自然、資料、学芸員などを活用して、本物に近い情報を集めることができる。 カ 集めた情報を分類整理して、必要な情報を選び課題追究に生かすことができる。</p> <p>コミュニケーションを行う力 キ 自分の考えを伝えるとともに友達のを聞き、自分の考えを深めたり、活用したりすることができる。 ク 調べたことや考えたことを、自分の言葉で表現できる。</p> <p>他者と協力する態度 ケ 課題追究のために、地域の人やゲストティーチャーなど他者と協力しようとするすることができる。 進んで参加する態度 コ 学習内容・課題に対して興味をもち、主体的に活動に取り組むことができる。</p>
--

1-7. 単元の展開（全22時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 2 3 4 5 6	<p>○ 只見の森を探検しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 下福井の森とは異なる森の探検を行い、地域の自然について学び知識を得る。 (3)  <p>○ 学習の計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでに学んだ事を分類整理することで、生まれた問いをもとに学習計画をたてる。 (3) <p style="text-align: center;">【本時2 / 3】</p>	<p>ア 地域の自然環境に関する情報を比較して、環境の特徴をとらえることができる。</p> <p>ウ 事実や本物に近い情報を生かして、自らの問いを解決できるように学習計画を立てることができる。</p> <p>エ 学んだ知識を分類整理する活動を通して、問いをもち解決の方法を考えることができる。</p> <p style="text-align: center;"><多面的・総合的に考える力></p> <p>オ 只見の自然、資料、学芸員などを活用して、本物に近い情報を集めることができる。</p> <p>キ 自分の考えを伝えるとともに友達のを聞き、自分の考えを深めたり、更に活用したりすることができる。</p> <p style="text-align: center;"><コミュニケーションを行う力></p>
7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18	<p>○ 只見の自然や人々をもっと調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな問いをもとにブナセンターまたはこれまでに観察した森を再度訪問し、地域の自然について調べる。 (5) ゲストティーチャーを招き、話を聞き体験してみる。 (4) 本や資料を活用して調べる。 (3) 	<p>オ 只見の自然、資料、学芸員などを活用して、本物に近い情報を集めることができる。</p> <p>カ 集めた情報を分類整理して、必要な情報を選び課題追究に生かすことができる。</p> <p>キ 自分の考えを伝えるとともに友達のを聞き、自分の考えを深めたり、更に活用したりすることができる。</p> <p>ケ 解決のために、地域の人やゲストティーチャーなど他者と協力しようとするすることができる。</p> <p>コ 学習内容・課題に対して興味をもち、主体的に活動に取り組むことができる</p>

<p>19 20 21 22</p>	<p>○ 学習したことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習した内容を模造紙や、レポートにまとめる。 (2) ・ 学習した内容を共有する。 (1) ・ 新たな問いを明らかにする。 (1) 	<p>ア 地域の自然環境に関する情報を比較して、環境の特徴をとらえることができる。</p> <p>イ 只見の自然に関心を持ち、自らの問いをもつことができる。</p> <p>ク 調べたことや考えたことを、自分の言葉で表現できる。</p> <p>ケ 学習内容・課題に対して興味を持ち、主体的に活動に取り組むことができる。</p>
--------------------------------	--	--

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ



単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

新たな知識を分類整理し既知と比較する活動を通して、子どもたちが只見の自然環境について問いをもつことができる。
 <多面的・統合的に考える力>

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 只見の自然博士を目指してこれからの活動を考えよう。 </div> <p>2 分類整理する活動を行い、学んだ事実を明確にし、問いをもつ。</p> <p>(1) 恵みの森で得た知識を分類整理することで、何を学んだのかを明らかにする。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin: 5px 0; display: inline-block;"> 森で何を見つけたのかな？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ オオサンショウウオがいた。 ・ ブナの実やドングリがあった。 ・ 川が流れていた。  <p>(2) 下福井の森の様子と比較し、只見の自然環境についてとらえる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin: 5px 0; display: inline-block;"> 只見の自然のどんなことがわかったのかな？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの森ともにブナがあった。 ・ 恵みの森には、オオサンショウウオがいたよ。 ・ テンナンショウは下福井の森だけだ。 	<p>○ 前時まで、これまでに学んだ知識をカードに書いておく。</p> <p>○ カードを子どもたちに黒板に貼らせていくことで、子どもたち自らが分類整理できる状況をつくる。</p> <p>○ 子どもたちがカードを分類整理する中で、「動物」「樹木」「川」「実」などのような見出しをつけることで、学び得た知識がどのようなテーマとなるのか把握できるようにする。</p> <p>※ 分類整理の活動を子どもたちに委ね、相手の考えと自分の考えを比較しながら分類整理させる。</p> <p>○ 2つの森の様子の共通点と相違点について注目させる。</p> <p>○ 教師があえて子どもたちと対立するような意見を出すことで、2つの森の様子やこれまでの学びで得た知識を統合して只見の自然環境を捉えることができるようにする。</p> <p>◇ 子どもたちが分類整理や、自然環境をとらえるための比較する活動において、他者の意見を生かして考えることができたか。 (発言) <コミュニケーションを行う力></p> <p>※ 教師が対立する意見を出すことで、子どもたちが必要性をもち考えさせる。</p>

(3) 只見の自然博士に近づくために芽生えた問いを明らかにする。

博士になるためにどんなことを知りたいの？

- ・ アブラチャンは只見だけにあるの？
- ・ オオサンショウウオは恵みの森にしかいないの？
- ・ 学校の周りにはどんな植物があって、どんな実ができるのかな？
- ・ 両生類以外の動物はいるのかな？

4 次時の活動の見通しをもつ。

○ 森の比較によってとらえた只見の自然環境や、これまでの学びから子ども達に芽生えてきた問いを付箋に書かせ可視化させる。

○ 子ども達がもった問いを黒板に貼らせることで、これまでに調べてきたものに関連するものなのか、それとも新たな分野のものなのかを明らかにする。

◇ 2つの森について学んだ知識を分類整理したことで、問いをもつことができたか。(発言・付箋)

<多面的・統合的に考える力>

※ 子どもたちが分類し板書に示した只見の自然環境の特徴にもとづいて、子どもたちの問いを付箋に書かせる。

○ 子どもたちの問いをどのようにすれば解決できるのかと呼びかけ、次時の活動について見通しもたせる。

3. 今回の活動の自己評価

○ 子ども達に森で発見した動植物の分類整理を委ねたことで、実際に目の当たりにした動植物の分類に悩む様子が生まれた。そのため子ども達は必要感をもって友達とコミュニケーションを図りながら分類整理の解決を図る姿に結びついていった。

○ 分類整理を委ねたことにより、子ども達が森で発見した動植物などについて、子ども達が「植物」、「昆虫」といった根拠をもって分類する姿につながっていった。

○ 前単元で訪れた「下福井の森」の観察の体験と、本単元で訪れた「恵みの森」の観察の体験から学び得た事実にもとづいて、子ども達は只見の自然について共通するもの、それとは異なるものの視点にたって只見の自然の特徴について検討した。実際に体験した事実があるからこそ、都合よく共通するものにだけ注目して只見の自然の特徴を判断するのではなく、異なるものにも注目して多面的、総合的にその特徴について判断しようとする姿につながっていった。

○ 2つの森に共通すること、異なることについて分類検討していく中で、子ども達は新たな視点として地区が異なっていることに着目した。そして只見町の一部の地区の事実を目を向け、その中で共通することを只見の自然の特徴として捉えてよいのかと疑問をもった。この様子から、多面的に只見の自然の特徴をとらえようとしていることが伺われるとともに、これまでに調べた事実だけでは判断できないのではないかと、自らの体験や判断を批判的に考える姿にもつながっていった。

○ 2つの森を通して只見の自然の特徴について検討する場を設けたことで、子ども達は自らの学びを振り返り、これまでの学びでは不十分であると判断した。それによって新たに調べたい、明らかにしたいといった問いを生む姿につながっていった。

4. 今後の課題

● 本単元においては2つの森を見学した事実をもとに、只見の自然の特徴について検討していくことを想定していた。しかし子ども達は2つの森は只見町の一部の地区にあるものであり、そこで学び得た事実だけでは、自然の特徴を判断できないと考えた。この姿は教師側の想定の高さを浮かび上がらせた。子ども達の思いに寄り添えば、只見町の自然の特徴は町全域の自然の特徴を指すものであり、2つの森だけでは判断できないと考えるのは当然であった。子ども達が只見の自然の特徴について自信をもって判断できるようにするためには、より多くの森を観察すること、そして多様な動植物についての情報をより多く得ることが大切であることが考えられた。より多く、より多様な情報を準備し、その中から只見の自然の特徴について検討する場を設けていかなければならなかった。

● 子ども達に只見の自然の特徴について検討させるうえで、比較する視点が動植物の共通点から地区による違いへと変化していった。子ども達にとって自然の特徴を考えること自体が難しかったことが考えられた。そのため動植物で共通していること、地区が異なっても共通していることといったように子ども達が考える視点を絞った状態で臨めるような授業、または単元としていかなければならなかった。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 身近に森や林など、足を踏み入れることができる自然環境があること。
- 森や林に入る活動を何度も設定すること。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。